

希学園 第406回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第406回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年3月8日実施)	https://vimeo.com/1171252654/eda102769a

① (中西友子『地球を救う植物のすごい知恵』より) ※出題の都合上、一部変更した箇所があります。

1 a 「命名」は、名づけること。b 「旅行」については、「旅」の字形を「族」などと混同しないことが肝要である。c 「記録」の「録」は「縁」などのつくりと混同しないように気をつける。

2 「コピー機や光電池など」に役立つ特徴を考える。インクなどどこかにしか当てはまらないと思われるものは、消去法的に外すとよい。

3 文脈に適する語を答える。小学生の日常生活からはやや外れた言葉を出題したので、そうした言い回しがあるということ、そのイメージ・使い方を見知っていこう。たとえば、「選択」に「的」を付けることもあるといったことなど。ニュアンスとしては「意思はないかもしれないが、選んだかのように、その物質だけを」といったところである。

4 X 「マディソン軍医はく見抜いていました」↓(X) ↓「防御手段を何も施されずのまま」とあるので、逆接を入れる。

Y 「知られていたが防御手段なし」↓(Y) ↓「大問題となりました」とあるので、時系列的にそのまま進んだ場合を示す表現を入れる。

Z 「ワイオミング州」↓(Z) ↓「同様の症状による」コロラド、ユタ、サウスダコタ州などでも報道されました」とあるので、並列・追加の接続詞を入れる。

5 日頃から部首に注目して漢字学習を進めるとともに、こういった定番のパズル的な語句問題にも慣れておこう。「へん」や「つくり」なら思いつくものも、「かんむり」や「かまえ」、「によう」などになると思いつきにくくなることもあるが、行き詰まったら柔軟に考えたい。そして、そもそも知らない言葉は思いつきようがないので、語彙力自体を育てていこう。

6 ③では「ゲンゲ属」の中でもそれぞれの植物ごとに濃縮度合いは異なることを述べている。④では土壌中に一定量しか存在しない場合でも、植物ごとに吸収力が異なることを述べている。

7 直後の文を利用すればよい。「指標」なので、基準・目印となるということ。本文中の言葉を用いるといっても、「セレン」限定であれば、「指標植物」のような一般的な呼び方はしなないであろうから、「セレン」という具体名は外すほうがよい。事実としては、元素量以外の事物であっても、基準・目印となるのであれば「指標植物」という呼び方はできるが、本文中の言葉を用いるので、「地域」の「元素」限定でよい。

8 「不適當」を選ぶことに注意する。本文前半に「犠牲となった家畜の大半がヒツジでしたが、ウシやウマにも被害が広がりました」とあるので、ウの「無かった」は言いすぎである。

9 「因果関係」などの同意表現にも注目しながら、直前から抜き出せばよい。

10 固有名詞や数字で溢れている文章ほど、それらの関係を正確に読み取りたい。アは「元になって」(少なくとも本文中では命名の関係が明示されていない)が、イは「まったく不明」(有毒植物が原因であるとの指摘は複数あった)が、ウは「カルシウム」が、エは「多量」(克山病は不足の例)が、本文と異なる。

② (谷津矢車『廉太郎ノオト』より)

1 a 「有」は「漢字の音読み+する」からなる語。この種の語には文章語的なものも多いので、見かけたら覚えておくこと。b 「見計らい」では「計」の訓として「はからう」があることに注意する。c 「熱量」については難しくはないだろうが、画数の多い字なので、誤字判定されないよう、正確・丁寧に書くことが大切である。

2 Aの「手中(しゅちゆう)に収める」は「手に入れる」の意味。Bは「批判に対して」という文脈なので「耳を貸して」となる。

「手を貸す」などと誤解のないよう、前後は必ず確かめること。Cの「これ見よがし」は「わざと見えるように」といった意味。「聞こえよがし」なども関連で覚えておこう。Dの「芋づる式」は「一つの事柄から連鎖的に他のことや多くのことが連想されたり判明したりすること」である。

3 幸も「なんであなたがここにいるのよ」と述べているが、この傍線部は直後でケーベルが廉太郎に耳打ちしていることから、「廉太郎の顔に」であることがわかる。「レッスン」であることも直後で教えられてわかることなので、イも選べない。

4 ケーベルの「君は瀧君の演奏を下手だというが、それはいつの演奏を指しているのだね」という言葉から、過去に下手な演奏を聞いていることがわかる。しかし、「これまで」殆ど顔を合わせることはなかった」ともあるので、日常的なことではなく、それにあたりそうな大きな出来事があったのであろう。それが書かれた箇所を探す。

5 幸の去った後、ケーベルは「彼女は気づかなければならない。自分に何が足りないのか」と述べている。

6 続く箇所、なぜ非難なのか腑に落ちない廉太郎に対して、ケーベルが真意を説明しているの、その部分にあるだろうと見当をつける。

7 Iは二行後なので、素直にたどれば見つかるだろう。IIは問5ともつながるが、それがいまの幸にはできないということとも合わせて考えられると筋道が立てやすい。どれだけ才能に溢れていても、音楽は技術だけではないので、「必死に勉強して譜面読みを覚えたい」ピアニストには負けてしまう、とケーベルは述べている。「勉強」という指定語句を活かしたうえで、六十字という指定字数から、勉強の中身を具体化したいのだと見当をつけると、前半部を参照することができるだろう。廉太郎のことをたびたび賞賛する言葉が「賢明」であるのは示唆的である。

8 廉太郎からすると、幸はその才能を常に意識する相手であったが、その幸への「当て馬」にされたということは、それに値する「肉薄した実力者」と認められたということなのであった。

9 国語の試験の題材文として物語を読み進める際には、登場人物の人物像(言動から読み取れる性格やキャラクター)を意識的に考察するようにしてほしい。1は「自信家」や「ケーベルの真意に気づいていない」が、2は「負け、自信を失っている」が、3は「音楽を教えるために」「つねに生徒のことを考え」が誤り。本来は哲学を教えに来ているし、自身の考えに没頭する面もあった。